



工藤光志議員の一般質問

市政の隠れた問題を掘り起こし改善を迫る

【質問1】豪雪対策の予算、余ったら基金に積み。次の災害に備えろ。

- ・除雪予算の確保は評価するが、特定業者への集中が初動の遅れを招いた。
→ 余剰予算を「豪雪等災害対策基金（仮称）」として積み立てるべき。

【質問2】議事録もない校長会議。教育行政を正して。

- ・校長会議に議事録がなく、低学年の情操教育も軽視されている。
記録管理体制を即刻整備し、SNS誹謗中傷から教職員を守る環境を要望。



議員定数の削減について（現行定数 28人→26人 へ）

弘前さくら未来は、人口減少や将来の議会運営を見据え、議員定数を現行の28人から26人へ削減する条例改正案を提案、賛成しました。
多様な民意の反映と、持続可能な議会運営の両立を図るため、必要最小限の見直しとして提案し、議会改革の一步を進めました。



◎骨格予算に関する附帯決議案について

市長選挙を控える予算議会において、弘前さくら未来（4名による提案）は、選挙後の民意を予算に反映する余地を残すべきとの考えから、附帯決議案を提出しました。
合併後初となる試みとして、政策判断を要する事業は選挙後の新たな市政のもとで改めて判断すべきと訴え、真の骨格予算のあり方を議会で提起しました。

各議員連絡先

成田だいすけ

☎ 090-2026-6612

工藤ゆうすけ

☎ 080-1672-8981

工藤みつし

☎ 090-2020-0600

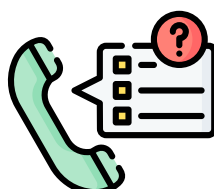


竹内ひろゆき

☎ 090-5835-6364

樋川あつこ

☎ 0172-27-5761



困りごと・ご意見等
お気軽に
お寄せください。

弘前市議会 会派

弘前さくら未来

会派レポート

Vol. **11**
2026.4.21



日頃より、弘前さくら未来の活動にご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。
私たちは、現場に足を運び、市民の声を聴き、課題を整理し、具体的な提案につなげる

「働く議会人」
でありたいと考えています。
これからも会派一丸となり
弘前の暮らしと未来のために、責任ある議会活動を進めてまいります。

弘前さくら未来 メンバー一同

次回の議会報告会のご案内

日時: 令和8年5月27日（水）18:00～

場所: 弘前学習センター

テーマ: 「弘前市議会の動き
議員定数削減や付帯決議案提出 など」

【問い合わせ先】担当: 竹内 博之

メールアドレス: hirosaki.genki.takeuchi@gmail.com

電話番号 : 090-5835-6364

お気軽にご参加ください!

※会派レポートは弘前市議会議会政務活動費の交付に関する条例第5条の規定に基づいて作成しています。





弘前さくら未来 議会一般質問



成田だいすけ議員の一般質問

冬の弘前で苦しむ市民の声を行政に届ける

【質問1】孤立は「問題が起きてから」では遅すぎる。予防の居場所を。

- ・従来の事後対応型福祉では孤立を防げない。現場団体も担い手不足で限界。
→ 居場所づくりを戦略的投資と位置づけ、企業と連携プラットフォームを構築すべき。

【質問2】子どもが安全に学校へ行けない冬を、このまま放置しない。

- ・校内除雪が限界に達し、休校判断の基準も不透明で保護者が混乱している。
→ 判断基準を明確化し、緊急連絡手段を防災無線・アプリなど複数に多角化すべき。

【質問3】子どものSOSを見逃すな。先生が追い詰められている現実も。

- ・不登校の早期把握と教職員の働き方改革が同時に急務。
→ 健康観察アプリの導入とスロースタートなど子どもと教員双方を守る施策の推進を。

【質問4】バスが来ない、遅れる、情報も来ない。冬の公共交通の立て直しを。

- ・除雪不足でバスが迂回・遅延し、情報もリアルタイムで届かない。
→ 予防保全型除雪へシフトし、道路部局と教育委員会がデータリアルタイム共有すべき。



工藤ゆうすけ議員の一般質問

給食から地域の食と経済を変える

【質問1】給食に有機農産物を。子どもの食と地元農業の未来のために。

- ・世界情勢や環境負荷の観点から、化学農薬依存のリスクが高まっている。
→ 特定の日有機農産物デーを設けるなど、段階的な導入から始めるべき。

【質問2】地場産わずか4.7%。給食のお金は地元に残っているのか？

- ・地場産野菜の利用率が極めて低く、入札でも公金が地域外へ流出している懸念がある。
→ 最安優先でなく地域貢献を評価する総合評価落札方式導入を検討すべき。



竹内ひろゆき議員の一般質問

豪雪対応と財政悪化、市長の責任を問う

【質問1】あの豪雪、市の対応は本当に十分だったのか？

- ・救急・物流が麻痺し市民生活が停止。危機管理体制は後手に回っていた。
→ AIカメラで路面状況をデータ化し、科学的な除雪優先順位の決定を。
→ 行政・業者・住民の共同体制を再構築すべき。

【質問2】市の貯金が5年で84億円→31億円。財政は大丈夫か？

- ・骨格予算に政策経費が混在し基金も激減。市長自らが以前批判していた同じことをしている。
→ 財政は「危険信号」。財政構造の転換を今こそ向き合っていく必要がある。

【質問3】大雪の最中、市長はなぜ市民に語りかけなかったのか？

- ・市長の直接発信はわずか3回。市民との感覚のズレを招いた。
→ 危機時こそ市長自らの情報発信で見通しを示し、市民に寄り添うべき。



樋川あつこ議員の一般質問

数字と現場の実態で市政を問い直す

【質問1】子どもが車道を歩いた冬。通学路の安全は誰が守るのか？

- ・歩道除雪が後回しになり、子どもが車道を歩く危険な状況が発生。
→ 1,000件超の通報データを活用し、データに基づく除雪計画を雪のない時期から策定すべき。

【質問2】2億円投じた観光組織、売上600万円。この費用対効果でいいのか？

- ・DMOへの5年間で約2億円の投資に対し、販売実績は約600万円にとどまる。
→ 情報発信にとどまらず、インバウンドや教育旅行を直接取り込む段階へ移行すべき。

【質問3】コロコロ変わる国の米政策。弘前の農家を市が守ってほしい。

- ・国の政策転換が続く、農家から米作りを続けられないという声が上がっている。
→ 転作支援や交付金の周知を図り、次世代に引き継げる農業を守るべき。

弘前さくら未来は、市民の皆さまの声を市政に反映するため、引き続き議会活動を進めてまいります。皆さまのご意見をお寄せください！

